

○議長（井上勝彦君）続きまして、順番8、21番 岡君。

〔21番（岡 弘悟君）登壇〕

○21番（岡 弘悟君）おはようございます。

今回、2点通告させていただきました。早速ではございますが、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

1点目、保・幼・小・中連携による一貫した態度教育の導入をです。

態度教育とは、一見厳しいしつけを意味するように思われますが、あいさつ等の基本的な生活習慣を教育としてとらえ、実践して行うものです。ごく当たり前のことであり、本市においても各保育園、幼稚園、小・中学校で普通に指導されていると思いますが、それぞれの学校で態度教育の考え方やとらえ方で違いや教育方法の差異などが生じないよう、本市が考え、めざしていく態度教育を構築していくべきではないでしょうか。そして、その仕組みを義務教育のカリキュラムに取り入れ、連携した取り組みをしていくことが大切ではないでしょうか。

全国で多くの学校が態度教育を取り入れることにより、学力の向上やいじめの問題など直接関係ないと思われる事例にまでよい影響を与えているといった結果をよく耳にします。

本市においてめざすべき態度教育とは何かを考え、独自性を持ち一貫したカリキュラムを構築していくことが必要と感じましたので、以下質問いたします。

小項目の1番です。本市において独自性を持った多くの態度教育があると思いますが、具体的な例を幾つかお教えてください。

二つ目です。基本、態度教育とは日常的な

ものであり、各学校でそれほどの差異は考えにくいと思います。しかし、独自性を持って行っている学校（本市以外の学校も含む）と比べた場合、教育内容、結果などに差異が生じていると思われそうですが、いかがでしょうか。

小項目の3番です。独自性を持ち、保・幼・小・中に一貫した態度教育が必要と考えますが、市全体の教育バランスを考えた場合、やはり教育委員会を中心とした大綱が必要と考えます。独自性を持つこと、生活規律を改善することは、全体的な教育レベルのアップになると考えますが、一貫した態度教育についてどのようにお考えでしょうか。

大項目の2番目です。

杉村公園の活用と改修について。僕は杉村公園の近くに住んでいるんですけども、非常に昔と比べて荒れているというのは、すごく耳にしますし、自分自身もすごく感じるんです。

それで、質問にも書かしてもうとるんですけども、道の駅のような機能を持った駐車場を計画されていると聞いていますので、せっかくそういうのもされるのであれば、やっぱり市の方だけではなくて市外の方にも杉村公園には寄ってもらいたい。寄ってもらったけども、そういった施設をうまく使っていくためには、リピーターというのが非常に重要な部分だと思います。でも、実際、僕は今のままじゃちょっとリピーターというのは来てもらいづらいと感じましたので、この質問をさせていただきます。

杉村公園は、長く市民の憩いの場として、さらには近隣の市町村から多くの来園者を受け入れてきました。しかし、近年、駐車場の

問題や公園内道路の幅員が狭い、さらには赤松の立ち枯れや花がきれいではなくなった等の理由で、来園者数は減少しているように感じます。

国道371号の開通に合わせて、杉村公園下に駐車場を整備し、道の駅にほぼ近い役割を持つエリアを計画していますが、肝心の杉村公園が現状のままでは集客力に問題が生じるのではないのでしょうか。

いま一度、市民そして市外からも多くの方に来園していただけるような公園にするためにも、杉村公園の持つ役割を再検討し、新たな杉村公園をつくり上げる時期ではないのでしょうか。

以上、2点です。明確な答弁をよろしくお願ひします。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君の質問項目1、態度教育に関する質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（松田良夫君）登壇〕

○教育長（松田良夫君）まず、本市における具体的な実践例についてお答えします。

すべての幼稚園、保育園、小・中学校において実施されているのがあいさつ運動です。頻度に違いがありますが、教職員、園児、児童生徒が登園、登校時を中心に取り組んでいます。

幼稚園や保育園では、園児同士の伝え合う力の育成や思いやりの心の育成などを目的に、「ありがとう」や「ごめんなさい」を言えること、ルールを守りながら楽しく遊べること、「はい」と返事ができること等に取り組んでいます。

小学校では、礼儀や授業規律、清掃を大切にした活動等に取り組んでいます。例えば、地域の方々や接する際の言葉遣いや給食の際の「いただきます」「ごちそうさま」の徹底、

また清掃活動では児童と教職員がともに行ったり、児童が縦割りの班を構成したりしながら取り組んでいます。授業規律では、チャイムによる行動、姿勢、発表の仕方、授業の準備など各学校で大切にしたい項目を設定して取り組んでいます。

中学校でも、小学校同様の取り組みが行われていますが、発達段階に合わせたものとなっています。

次に、取り組みによる差異についてお答えします。各園においては、遊びの中で場面をとらえた的確な援助が必要です。どんな場面でどのような声かけや支援を行うかなど、職員が共通理解のもと保育を行う体制がつけられているかが問われます。

また、小・中学校においても同様に、職員の共通理解のもと、設定した取り組み項目を継続的に徹底して行うかどうかによって差異が出てきます。

また、児童生徒の実態から、学校だけでは取り組みの推進が難しい場合もあります。その場合、保護者や地域の方々にも協力いただきながら取り組むことが大切なことです。

一例ですが、高野口中学校では、長年自転車通学の際に、ヘルメットをかぶらない状況がありました。学校では、生徒指導主任を中心とした指導体制のもと、登下校の際の指導を行ってきましたが、なかなか改善が見られませんでした。しかし、地域の方々や保護者の協力を得て組織された地域共育コミュニティとともに学校が共同で取り組みを行いました。このことにより、長年の課題が解決されました。

このように、継続的に徹底した取り組みを関係者、関係機関と連携して取り組むことで、効果を上げることができると考えます。

次に、一貫した態度教育についてお答えします。

各園では、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく道徳性の芽生えを培う取り組みが行われています。小・中学校においては、学習指導要領に基づき、道徳の時間の指導を中心に学習活動全体を通じた道徳教育の中で、各学校の児童生徒の実態に合わせた重点価値項目を設定して行われています。

その中で橋本市としてめざす子ども像を設定し、市全体で取り組むことは、大切なことであると考えます。今後、園、学校と協議を行うとともに、保育園を所管することも課とも連携して具体化してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。まず小項目の1番から、あいさつ運動とか小学校とか以前より行っていたというのは、もう自分も地域に小学校があるので、子どもたちがあいさつしてくれるというのは、朝非常に気持ちよく感じているんですけども、ただ、活動内容に差異が生じているというのは、実際ないんでしょうかね。

例えば、自分が感じたことなんですけども、3年ぐらい前に中学のときの恩師の先生のところ遊びに行っただけです。それも約束もなしにとある中学校へ、僕の自分の母校ではなかったんですけども、そうしたら、自分も初めて入る学校やったんですけども、生徒が通るたびに全員あいさつをします。変な話、自分は関係者ではないので、入ったらちょっとまずいかなと思いつつ、職員室どこですかと聞いたら、案内までしてくれたんです。だから、すごい気持ちのええ学校やなというのがすごい感じた学校もあれば、あいさつしてもあいさつしてくれへんかったという思い出のある、それは自分の知っているところやっ

んですけども、ちょっと用事で行ったら、半分ぐらいの子はあいさつしてくれたけども、半分の子はちょっと不審な目で見られるというか、ええ大人が中学校に知らん人が入ってきたら怖いかなと思いつつ歩いておったんですけども、ただ、あいさつって、そういった防犯面でも非常に役に立つというか、それはもう昔から言われているんですけども、そういった点で活動内容に差異というのは、実際生じていないんでしょうかね。その辺ちょっと一点、1番のことでお聞きします。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）各学校によりまして、あいさつ運動というか、あいさつのさせ方に取り組みあり方に若干差がございます。

例えば、子どもに「おはようございます」と言うてほしかったら、先生がみんな、「おはようございます」と言うべきです。ある先生は「おはよう」と言う。そういう違いも一つの違いだと思います。

私自身の経験では、最後小学校で5年間校長をしたんですけども、まず子どもに「おはようございます」と言ってほしかったです。だから、毎朝通学路に出て行って、子どもたちに「おはようございます」とあいさつを続けました。最初、子どもは「おはよう」と言う子どもも大変多かったです。そのうち、顔を見たら必ず「おはようございます」というあいさつに変わってきたという印象を持っています。

だから、学校で子どもにどんなあいさつをしてほしいかということ、1回きっちり意思統一して、どういう取り組み方をするかということをやっぱりきちんと決めるべきだと思います。

今言われたきっちりあいさつできる学校は、きっちりあいさつさせているはずで、そのあいさつの意味もしっかり伝えているはずで

す。できたら、そのあいさつも笑顔を添えてとか、心を添えてとか、そこまでやっぱりその行為に意味を込めるという指導もこれから徹底していく必要があるのかなど。態度教育について質問を受けて、改めてそういうあり方をもう一回検討していく必要性を強く感じています。そういう意味であいさつ一つを取り上げても学校に違いがある。保育園、幼稚園、小学校、中学校、どういう一貫性を持ってやっていくのかという話し合いの場も、小・中一貫、いわゆる幼・小連携、保・小連携というのをやっていますので、その辺、そういう観点でもしっかりと一貫性を持てるような話し合いができると思いますので、今の違いを前提として、それをどう乗り越えていくのかという話し合いの機会をぜひ持っていきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。態度教育って、ぱっと聞いたらきつい言葉に感じるんですけども、自分たちも小学校のときに嫌な思い出の一つとして、運動会のときに足並みがそろっていないとよく怒られたんですわ。それは、僕は態度教育とは違うと思います。それは、もちろん小学校なのでばらばらで、それはそれで個性ではええと思うんですけども、本当に先ほど教育長がおっしゃられたみたいに、あいさつの意味とか、例えばほんまに靴をそろえることの意味というのをちゃんと教えてあげないと、それはほんとの態度教育じゃないと思うんです。

ただ単に子どももやらされている感になってしまったり、何のためにやっているのかわからへんかったら身にもならない。やっぱりやることには一つ一つ意味があって、そして、僕は結果も伴ってくると思うんです。そこまできっちりと教育というものをつくり上げていってほしいなと思ったので、これを質問さ

せてもらったんですけども、2番に移るんですけども、僕は専門家にこういうことを言うのはあれなんですけど、例えば佐世保市なんか、教育委員会が独自にそういった徳育教育のカリキュラムを教育委員会から出されてそういう取り組みを始めていたりだとか、教育長もよくご存じだと思うんですけど、和歌山市の城北小学校、立腰をやっとんのかな。本市では三石台幼稚園も立腰をされていますよね。そういった特別というか、別に特別ではないんですけども、ちょっと違った観点からやっている態度教育、徳育教育というのもどんどん取り入れていったらいいんじゃないかなと思うんです。それによって、ここにも書かせてもうたんですけども、学力の向上とかいじめとかといった問題にもある程度の効果を示しているというのを、実際よく耳にします。

以前にも、文教厚生委員会でも福井県のほうに視察行かせてもうたんですけども、やはり教育レベルが高いところは非常に態度教育というか生徒のあいさつとか、背筋が伸びているとか、靴をそろえるとか、非常によくできている学校というのは、自分ら議員も見に行かせてもらって非常に感じましたので、やはりこういった態度教育という、言葉はちょっと厳しいかもしれんですけど、本当にごくごく一般のしつけ、その日の日常の態度というのは大事だと思いますので、ぜひとも先ほどもういいお答えをもうたんで、これ以上言うことはないんですけども、本当に教育委員会で一貫して、まずは教える側の先生にその意味と結果を知ってもらおうというかな。先生もただやったらええということでは何の効果も発揮できないので、僕は意味と効果、結果を一貫してこういうのをめざしましょうというのは教育委員会で作くり上げてべきだと思います。

そうじゃないと、学校によってまちまちに

なってしまうと、それは子どもたちにとっても不利益になるし、やはりいいものをつくり上げていこうというのであれば、もう全体的なものを一つにまとめて、そこに向かって一つのところに向かっていくというのは非常に大事なんで、その辺は、先ほどいいお答えをもうたんで、よろしく願います。

ちょっと3番目、一点だけ気になるのは、保育園、幼稚園で、例えばの話、それは小学校でもええです。一生懸命先生方が頑張って教えていただいても、例えば小学校に上がったときにできなくなってしまったり、例えば小学校でできとったことが中学校になってできなくなってしまったり、もちろんそれは発達の過程でいろんな大人になっていく心境もあるし、自分もそれは経験しているし、よくわかるんやけども、せっかくやっばり覚えてできるようになったことが、またできなくなったときに、どう対応していくかというか、それで僕は一貫性は必要だと思うんですわ。やっばり続けていく。先ほど教育長がおっしゃったとおりで、本当に発育段階に合わせた指導の仕方そして考え方、とらえ方は、もう本当に教育委員会で一貫して、そして本市独自のものをつくり上げていってほしいと思うんですけども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）先ほど21番議員がおっしゃられたように、態度教育というのは圧をかけてやるものとかやうと思います。その態度のよさをしっかり伝え、そしてよかったという体験をさせることが、ほんとの態度と心が結びついたものになっていく。それが、この態度教育に臨む指導者の基本的な立場と理解しています。

橋本市の子どもを眺めて、本当に共通するものをつくり上げていきたいと思います。一

つ、すごくいい取り組みをしている中学校があるので、その事例をちょっと紹介してもいいですか。

ある中学校ですけども、今年から給食が始まりました。その校長先生は、この給食を通じてしっかり生徒指導をしたいという願いを持たれたんです。あるとき、中庭に牛乳パックが一つほってあった。これはあかんと、校長先生は気づいてすぐ全校集会をしたそうです。牛乳パック1個で全校集会をした。その学校の願いというのは、すごく生徒に伝わったそうです。そして、つい最近給食にミカンが出た。廊下にたった一つだけミカンの皮が落ちとった。そのとき、校長は不在だったんですけれども、教頭以下がこれではあかんと、言うて、自分らで判断して全校集会をしたと言っています。そこまで徹底した取り組みをしていただいている学校があるんで、そういういい取り組みをお互いに紹介しながら、いわゆる手法を学ぶということが絶対必要ですんで、その辺も目標と手法とあわせて協議しながら、橋本市独自の方向性を考えていきたいと思っておりますので、またご支援のほうよろしく願います。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。本当に教育長が今おっしゃられたみたいに、大人が子どもたちに上から目線と言ったら言葉悪いですけども、上から教え込むのではなくて、子どもたちが子どもたちのプラスになる、最終的には自分にとってプラスになるのが態度教育だと思うんです。

本当に子どもたちのことを考えて、大人が同じ目線で、先ほど教育長がおっしゃってましたけど、やっばり「おはようございます」と言ってもらいたい。子どもたちに同じ立場でということは、僕はやっばり先生も「おはようございます」と言ってほしいなというの

は、実際あったんです。

やっぱりそういう子どもたち目線でやっていく態度教育で橋本市独自の態度教育というのを、本当にこれからつくり上げていくと、10年後、20年後、橋本市の子どもたちが大人になったときに、みんなの宝になると思いますんで、どうぞ本当に一貫した教育をつくり上げていくよう要望いたしまして、1番の質問を終わります。

○議長（井上勝彦君）この際、10時45分まで休憩いたします。

（午前10時27分 休憩）

（午前10時46分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

次に、質問項目2、杉村公園の活用と改修に関する質問に対する答弁を求めます。

建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）杉村公園は、昭和46年に供用が開始された面積約12.7haの総合公園です。遊歩道やつり橋などを整備し、四季折々の景色が楽しめる公園として、また市民の憩いの場として利用されてきました。

しかし、議員おただしのとおり、近年公園への来園者は減少しているように思われますが、原因につきましては、さまざまな要因が考えられます。

公園駐車場までの道幅が狭く車の乗り入れが困難で、駐車可能台数が少ないことや、樹木が覆い茂り、公園全体が暗くうっそうとした感じであること、またトイレについても古い建物であるため利用しづらい等の要因が考えられます。

公園内の赤松の立ち枯れ等については、伐採費用として、この12月議会に534万円の補正

予算を計上しています。また、現在社会資本整備総合交付金事業で実施しています杉村公園駐車場及び多目的広場の整備事業では、国道371号バイパスから直接出入りできる計画を進めており、完成しますと杉村公園へのアクセスの改善や駐車台数の増が図られることとなります。

橋本市の名誉市民で世界的な数学者である岡潔博士の記念館等、杉村公園の今後の整備計画についても、市内部で検討を進めています。

ただ、公園全体の抜本的な改修には多額の費用を要することから、当面は予算の許される範囲で四季を通して楽しめる公園に少しずつでも手を加えていきたいと考えますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。正直、四季折々の景色はございません。杉村公園は、昔、自分が小さいときには、四季折々の草花が咲きましたが、今はそういったものはほんの少し見受けられますけども、四季折々の景色というのは桜が非常にきれいですけども、それ以外、秋とかはさほどきれいな花は咲いておりません。正直な話、見れるものはございません。

一番気になるのは、費用が限られている中で、担当の方もシルバー人材センターの方も造園屋の方も非常に一生懸命やってくれているのは非常に感じます。草刈りに関しても、伸びてきてお話しすれば刈ってくれますし、最低限活用できるようにはしてはいただいているんですけども、ただ本当に残念なのは、自分が小さいときというのは、御幸辻の駅から多くの、郊外から市外からの小学生が列をなして杉村公園に遠足に来ていた光景を、実

際よく目にしました。

小さいときに自分らが本当に身近であった公園やったんで、ああ杉村公園てよそからも来てくれるんやという思いがあって、同世代の子どもたちが来て、学校どっから来たんとか言うて話をしたのもよう覚えています。自分は近くで住んでいますけども、今そういった光景は全く見受けられません。

僕、杉村公園てすごい残念なんです。これは、橋本市でいうたら本当にすごい大きい公園じゃないですか。大事にしていったら、本当に多くの方が来られる公園だと思うんです。ただ、今は地元の方、市内の方すらね。これは本当の話ですよ、残念な話。僕、この間、杉村公園てどこで聞かれました。それも近くの方です。近くの新興団地に新しく引っ越しされてきた方なんですけども、岡さん、杉村公園てどこにあるのと聞かれました。何があるのと聞かれて、僕は答えられなかったです。僕、これは非常に残念なんです。

やっぱり今、杉村公園は本当にコンセプトがなさ過ぎますよ。何を目的とした公園なんやと、どういった公園にしていきたいんやというのが全くなさ過ぎて、実際、現状がコンセプトがないもんやから、本当に雑木が生えてしまって、何をしたらええのという公園になっている。実際、子どもたちが夕方まで遊べる公園じゃないです。大の大人が、冬の今の時期に3時ぐらいに公園内を歩いたら怖いですよ。

そういった現状を考えたら、やっぱりコンセプトを持って、自分自身はせっかく道の駅に近い駐車場をつくってやっていくという構想もあるのであれば、そこに郊外の方が来られたら、杉村公園も見たいかと思うますわ。その中で、現状でもう一回来たい公園と思えるかなと考えたら、すごい疑問です。

そらお金がかかるというのもわかるんやけ

ども、僕の個人的な意見で大変申しわけないけど、かけなさ過ぎ違うんかな。やっぱり市民の憩いの場であるというのも大事やし、そうであるべき公園じゃないんかなと。公園というのはそういうものじゃないんかなと。

ほんで、今、多くの方が退職されて、簡単に歩いてはる方も、杉村公園にたくさんいらっしやいます。でも、やっぱり道が悪かったり、実際、資料館の前の道って、6月ぐらいに行ったら、アスファルトにコケが生えるんです。これは本当の話ですよ。つるつる滑って、正直な話、歩くのも怖い。車は上るんかなと、それぐらいコケが生えている状況も実際に起こっておるんです。

僕は本当に一番残念なのは、市内の方が今公園に遊びに行くときってどこに行かれるか、これ、部長ご存じですか。ちょっと答えていただきたいんですけど、今、僕ら世代のお父さん、お母さん方が休みの日に公園に連れていくって、どこの公園に連れていかれているか知っていますか。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）具体的には存じません。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ぶしつけな質問をして申しわけなかったんですけど、実際よく聞くのが、まず上野公園、このごろ上野公園よりももうちょっと五條駅よりのちょっと公園の名前を忘れちゃったけど、川沿いにある公園があるんですわ。そこへ行ったら、風船が膨らんで屋根があって、ぽんぽんぽんぽんはねるんですわ。その辺に、土日に行ったら、橋本市内のお母さん方はしょっちゅう連れて行かれています。

実際にお話を聞いていたら、先週も行っていたよという話をよく聞くんですけども、杉村公園という名前は挙がらないですよ。市内

にこんなええ公園があるのに、みんな市外に行っちゃう。僕は、こういう現状はすごい悲しい。やっぱり杉村公園というのをちゃんとしたコンセプトで位置づけて、予算はかけられないかもしれないですけど、ちゃんと年々決めて予算はかけていくべきだと思うんですけども、市長どうでしょうか。

○議長（井上勝彦君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）岡議員の再質問にお答えしたいと思います。

杉村公園の問題でございます。確かに言われておるのは、一つも間違うてございません。そのとおりであります。うっそうとしておって、私はブラジルへ行ったことがあるんですが、あこのジャングルとよく似ております。

したがいまして、6月ごろに私も行ったときに、これは具合悪いということで、夏過ぎに職員何十人という方を要請して、まず松の木の調子の悪いやつを全部切ろうやないかということで、したことがあるんです。ところが、膨大過ぎて150本か200本ほどあるんですよ。そんな中で、我が身ら行ってやったところが20本か25本ぐらいでした。1本の木が2tも3tもあるんですね。そんなことで、これは歯が立たないということで、2回、3回とようしなかったわけでございますけども、やはり、見た感じは、雑草らが下からもうつくつくばいに生えておるのは、あんなんは公園やないですね。私とらの南の山があるんですけども、それしかよっぽど景観がええだけ、まだ国城山から東に面してね。

ほんで、一般の市民は杉村公園に行かなくて、南のほうへ最近行っておるんですよ。そんなことで、やはり橋本市の杉村林之助さんがご寄贈いただいた立派な何であるだけに、今、構想を内部で練っておるんですけども、池の下で駐車場とそして岡潔先生の記念館を

どこかへ建てていくと。私は、岡潔先生のを建てたら、対外的にもこれはやっぱり人が来るんですよ。今の公園だけで人がよそから来なさいよと、資料館もありますけども、あれの資料館ももう中半で小さくて、足のやり場がないほどになっていますわな。これも、そのうちには建て替えしなければならないと思いますけども、そして、メタセコイア、アメリカの木が十二、三本ありますな。あれらもう半分以下にしないと、日が当たらないんですよ。下のほうの桜なんかも、もうひよろひよろしています。その桜を生かそうと思ったら、あのメタセコイアなんかも半分以下に切ってしまうてせないかんのやないかなと思ったり、あるいはツツジなんかも大分あるんですけども、ツツジも日陰のためにみんな下のほうが枯れてしまってひよろひよろしてるんですね。ああいうのは、根株から切って、芽を再生して新しい芽を出して、ツツジでもサツキでもこんもりしたような形のものをつくっていくことが公園であろうと思うんです。

これには、やはり膨大な予算が要ってくるわけでございますけども、岡議員の言われておることは間違いがございませんので、これからできるだけ検討した上で、年次計画のもとに、もう少し市外からでも、私ら市会議員の当時には、よそへ視察に行きますわな。そうしたら、もう必ずその市の一番ええ公園へ連れていただいてすることが経験があるんですけども、よそからこちらへ市会議員も橋本市へ視察に来るんですけども、それは皆さん、議長もご存じやと思うんですが、杉村公園へ案内できない状態ですな。きっとこれ何ぞやと言って、えらい恥をかくだけであるんで、できるだけ早期に他府県からもどんどん来ていただいたお客さんに対して、杉村公園を見ていただけるというようにしていかなければならない。それは、今度、駐車場から岡潔先

生の問題も建てながら、あるいは私は上のほうで屋外の音楽のステージを、舞台だけをつくって屋根は要りませんが、こんなはお金がかかりませんので、電気だけは要りませんが、そういうのをつくって屋外音楽劇場じゃございませんけども、そういうステージなんかもやっぱりあそこへつくっていくべきではないのかなという考え方も持っておるんです。

これらもお金はほとんどかけなくても、我が身らでも建てて、屋根を張ってということは、それぐらいの馬力があらないとよくならんと思うんです。

いろいろ申し上げましたけども、やはり橋本市の唯一の立派な公園でありますので、できるだけ昔のように再生して、そして市民はもとより他府県からも来ていただいたときには、胸を張って案内できるような施設にしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）市長、ありがとうございます。前向きな話として受けとめさせていただきますが、ちょっと一点、今、現状がこうなったのは、やはりそれはもちろん行政が予算組みの中で予算を削っていった結果、こうなっているというのが実際にあるんです。それは、僕は一定の理解はしています。財政状況に鑑みて、公園事業の予算も削っていかなければならないというのは、市民の税金ですから、税金の投入に関して必要であるものと必要でないもの、もちろん考えていかなあかんのが行政の立場であるのは十分理解はしておるんですけども、やはりその結果杉村公園がこうなってしまった、ここまでひどくなってしまったというのは、僕は反省する点でもあると思います。

副市長が、スクラップアンドビルドという

言葉を以前僕らもよく耳にしましたけども、やはり今は杉村公園に関しては、もうビルドの時期に入っているんじゃないのかなと僕は思う。何でかという、新しい構想でこうやって駐車場の構想もしているし、国道371号が開通することによってより郊外から市内からも身近な公園になり得るチャンスやと思うんです。そのチャンスを、今しとかなないと、結局はあんな公園へ行っても仕方がないというイメージで終わってしまうんです。やっぱり初めて来た人は、ええ公園やなと思ったら来てくれますわ。でも、1回見て、先ほど市長がおっしゃったみたいに、これ何よとなってしまうと、もう来ないですよ。そんなうわさも広まってしまう。だから、僕は今本当にチャンスやと思うんで、今、いいお答えとして受けとめさせていただきますんで、今後、やはり以前のような活気のある杉村公園をつくり上げていくために、ぜひとも方向性を示していただいて、予算もつけていただけるよう要望いたしまして、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（井上勝彦君）21番 岡君の一般質問は終わりました。